

胸の前の空間を一渉り廻わして見る。

空想 「思い出」と同じ要領の手まね。

官司 柏手を打つ真似をして、男性を示す。

草 「青」を表わして、掌を内側に向け指の間を開いた五指の指頭を上にした両手を腹の前で左右に並らべて、そのまま僅かに上へ伸び上らせる。地上から生え上った草。

叢 五指の指頭を上にして掌を内側にした両手を前に並らべて交互に上げ下げする。草の生え繁った様。

臭い (腐る) 「空気」と同じ要領で、人差指と中指の指頭を鼻腔に向け、顔をしがめて、不快な表情をする。或は鼻をつまむ。

鯨 後頸に握った手をやってから、五指をパツと開きながら、上へ上げる。(鯨の背から水を吹く)次に魚を表わす。

苦心 (工夫) 右の握り拳で、頭の右側を叩いて(頭を悩ます)から左の腕を叩たく。

(手間をかける)

薬 右手の薬指の指頭で左手掌の上をこまかくかき廻わす。他の四指は開いたまま

癖 掌を下に向けた左手の手甲の手首近く



の上で、右手の人差指と親指で輪をつくったのをのせ、(人差指の方をつける)、輪を開いて、人差指をま

っすぐに伸ばす。

嘴 上にさした親指の指頭の上に、隣りのまげた人差指をかぶせると嘴の形になる。それを口許につける。

国 五指の指頭を右にさし掌を内側に向けた右手。五指の指頭を左にさし掌を内側に向けた左手。この両手を左右に互の中指の指頭

でつけ合わせてから、左右に離し内側に夫々円を描いて最後に両手を手首で合わせる。即ち円形を造ったわけで、境界で開んだ国の意味。

首切り 誰れもがするように、手で自分の首を切る身振り。

組合 「協会」(連盟)と同じ手まね。

工夫 考える―骨折―考える。

蜘蛛 五指の指頭を上にし、掌を前に向けた両手を互の親指でつなぎ、他の四指を曲げ伸ばししながら、上へ移動させて行く。

四指は蜘蛛の脚となぞらえて、糸をつたせて上へ上る蜘蛛の横写運動。

雲、曇り 顔の前上で、五指の指頭を上にし、掌を前向け(稍々斜め上向け)て五指を彎曲した両手で、もくもくと立ちこめた雲を描くつもりでかきまわす。

倉 家―いろいろ―入れる―扉を閉じ

る。家を表わした両手の左手をそのままの形に残して置いて、右手で「いろいろ」を表わし、左手の下に物を入れる真似をして、扉を閉じる手直似(金庫と同じ要領)

暗い 「夜」と同じ手まね。

暮す(暮し)の「一昼夜」の手まねを三度繰り返えす。

○暮して(生きて)行くは、生きる―暮す、較らべる 両手の指頭を上にした人差指を胸の前で、対立させ、交互に上下させる。

「競う」の同じ要領。

栗 五指を曲げて、その指頭で顎の下を突く。かたい男の顎の無精ひげから、栗のいががした感触を連想したもの。

繰上げる 「延期」と同じ。

来る 指頭を上にした人差指を前方から、胸もとへ引寄せる。

苦るしい(苦しむ) 掌を内側にして五指を